

魂通リ論

— 精神生活の構造 —

左司和晃

□

子どもは変わったか？

そして、これからの教育を展望する……

このシンポジウムにかかわって、多くの問題を、事実を基に、つつし、じっくり、沈着して行きました。(註1)

私は、精神生活という方面から、アプローチすることの致しました。

□

諸行は無常です。

万物は流転していきます。

ですから、変めらぬものなんて、この世に存しません。

しかし、です。

よく見ると、変化・変転する万物の中にも、やはり、恒常的なもの

は、いくつもあります。

その恒常的なものの中にも、ひとくたえのひかれるのが存します。

それは、つぎの一事です。

死への恐れです。

恐怖です。

死にたくないと、いう執着です。

われもひと、一様に気になる、切実の一点と、いってよいでしょう。

三

いろいろなび死や不安の中にも、これはいつたか何でしょうが。

えらく根柢的なものなんだなあ。と思いました。

ちよつと思えば、実バ、当たリ前なことバ、すぐく敬慕したんです。

あらためて、衝撃を受けました。

な〜るほど、と合意したというわけです。

変化・実報の中ども、みじとな恒常性を保つていゝ。その一事。

すなわち、「死ぬのはイヤだ」というあたりは、ビクともしてはい

んだなど、深く感心じ入ったんです。

「死ぬのはどうして？」「死ぬのは怖い」「死んだらどうなる？」

つまりは、さきなんです。

ソウナンダ、ソコが魂ナンダ。ソノアテワレナンダ…

さう、直観したんです。

子どもも大人も、たれもかれも、さきが「観」なんです。

不女なんです。

言うがれは、魂のおびえなんです。

こうして、「魂通り」という言葉が生まれたんです。
 結晶したんです。

ところが、はつきりとわかって、精神生活の構造が浮上してきた
 というわけです。

それが、三つのレベルです。

精神生活の三段階です。

その西文の訳は、こうです。

<p>表通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 建て前 ● 和 ● 理念 ● 希望 ● 道徳
<p>裏通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● エゴ ● 優越感 ● やつがみ ● 発狂感 ● 虐待
<p>魂通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 死が怖い ● 夜が怖い ● 化け物が怖い ● 恐怖の払拭 ● 呪文と神仏

そこで、魂通りのこと。

あの幼稚園の子が、大病してその回復後に、園長先生のところへとんできて、「園長先生、死んだらどうなるの」と、真顔で尋ねたんだそうですね。『お浄土へ行くんですよ』と答えるのと、『そこはお母さんもお父さんも行けませんかと、重ねて聞いたらそうですね。『もちろん、そこでまた会えるんですよ』というのと、深くうなずいて、『ああ、よかった』と、たまたまの方へ走っていったというのです。(註)

一つの消息です。

大人だって、似たようなものかも知れません。

これがすなわち、魂通りを歩いている少女です。

つぎも、そうですね。

五年生の子どもたちだ、みんなは、天国と地獄のどちらへ行けると思っていますかと尋ねたり、天国へ行けると思っていると答えた子は、

三十二人中、たったの三人だったさうです。(註三)

少しく考へさせられる一事です。

人間はみな、なんが罪深いことをし、それを六月へ負つて生きてゐるのですね。

この一事もまた、得がたい消息です。

六

さして、です。

その魂通りの上の方へ、「表通り」があり、この表通りの下へ、

「裏通り」があはんとす。

さつきを表で、見た通りです。

構造的なんです。

それでは、表通り―裏通り―魂通り、この三者の要点的表

をもう一つ、こしらえてみましょう。

こんなぐあいです。

<p>表通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 仲良々 ● 場力せよ ● 大志を以て ● 勉強第一 ● 正直であれ ● がんばれ
<p>裏通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ヤツが憎い ● いぼりやがって ● お水ばかりな ● さいきすいな ● おれだつて ● あれが好き
<p>魂通り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● おぼろおん助けて ● なんまんたぶ ● 地獄なんてあつたの？ ● 神さまごめんネ ● 悪人善人はどうする？ ● 死ぬのイヤ！

実際には、この三者は、一踏の形で現象するんです。
 しがし、よく見ると、どこには質的レベルがある、というわけですよ。

七

たとえは、学校、そして授業。

どこでは、子どもたちは、すんなりと、「表通り」の顔をしています。

心得たもんです。

こうすれば、先生が喜ぶだろう、気に入らう、というのを、さういふことをちゃんと知っています。

日記・作文・詩なども、だいたいは、その線をやって、うまい世渡りをしているもんです。

さういふ、気遣いのする精神生活です。なんでもなやまうに見えて、相成り、気をつかっているんです。

まあ、おみやげの場ごのありようといえましようか。

救えられることもまた、よいことづくめの道徳規範が主流をなしています。

いわゆる、表向きの世界です。

八

それでいて、裏は、とってまどドラマチックです。

表通りでは、いかんせん、計量化したリ、また差をつけたがる風潮が、根強く存しています。

できる子でできない子。

言わうことをキレる子キレない子。

よい子わるい子。

それですぐら、いろんなコンプレックスが生ずるわけです。

葛井藤、わだかまり、得意ががり、おしのけ、かけひき、あらと、
というように、すごいもんです。

そして時には、大事件を発生させつつも、大方はそれなりだ、気をしずめ、なんとか前を向いて歩こうとしています。

これが、「表通り」の精神生活です。

特色は、ドラマ的で、しかも弁証法的なありようです。

九

この「表通り」の底にわたがまわっているのが、先にふれた「魂」です。
「魂」通リです。

いわけば、精神生活の「根」にあたるどころです。

死生・あの世この世・非占卦示呪・化け物つき物・神秘・無限者・
神や仏・大自然とが大字宇宙とが・生命のふりえ・不安、等等。

この「不安定感」が、いちばん大事です。

かなしろ、表通りと直結し、そして表通りを支えているからです。

十

それではここで、精神生活の三段階のそれぞれについて、定義
づけをしておくことにならう。

つきが、それです。

⑦ 表通り⁷の精神生活とは、ふつうの道徳で生きる世界です。

常流ライン

みなで仲良くとか。協力してやってくとか。和をもちとか。あいにくをかけたないとか。
且命(君臣の義・父子の親・夫婦の別・長幼の序・朋友の信)とか。五戒の生き方とか。五戒とか。
道徳的生き方。(気体め)

⑥ 「裏通り」の精神生活とは、人間関係のもつれの中で生きる世界です。

精神生活
暗黒線

差別。バジめ。ころし。がやくたい。まんぢく。まんぢく。ふれいかなしみ。よろこび。
対人関係のうらみつらみ。コンプレックス。負たミも。異議申立て。べりさず。深慮。
干越目的生き方。うらみもてて生き。批判的の生き。心体め。心。プライド。

⑤ 「魂通り」の精神生活とは、人間を超えたものとのつながりで生きる世界です。

神の理

霊魂へのおびと。生命へのおびと。怖れもの。魔。死。あの世。神仏。先祖。お教づくり。
大宇宙との合一。見神。内なる光。根源的の性。自己存在への衝。空や空の生き方。
絶対とのつながり。自在な生き方。大宇宙大自覚大エネルギーとのつながり。光明蔵。(魂録め)

総論は、ここにございます。

【註】

① 大東文化大学教育者専門学校創立50周年記念シンポジウム。一九九七年十月十一日(土)。

② 阿彌陀如来死んだらと云ふの曲。一三歳の時のこと。
③ 通判。仙教タイムス。一九九六年を代表する。

④ 藤原啓文「幸福の道徳教育論」。小笠原道元
早生の死を祝して。一九九五年五月十七日のプリント。

(一九九九年十月三十一日、全道研創会にて)